

ニュース

みんなでつくろう！

しまやけべいせき
下宅部遺跡はっけんのもり

第74号【'07-8月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成19年8月14日

柵を設置しました！

はっけんのもりの園内通路脇の一部に、柵が設置されているのにお気づきでしょうか。これは自転車の暴走を防止するための柵なのです。

元々、はっけんのもりへの自転車の乗り入れは禁止されています。それが一部の子供達に無視され、更には危険



な暴走行為が繰り返されているのが目撃されています。

はっけんのもりは縄文時代の地形を復元してあるため、北側が小高く、南側の通路に向かって下っています。この斜面を自転車で猛スピードで駆け下り、サーキットさながら通路を走り抜け、また駆け上っては駆け下りるといって、他の人にも自らにも極めて危険な行為がなされています。

最近では自転車による人身事故、自転車が人にぶつかって大怪我を負わせる事故が問題になっていますが、一歩間違えると、はっけんのもりの中でそういう事故が発生する危険性があります。特に幼い子供が多く遊びに来ている中でも暴走行為が繰り返されている状況なので、早急に安全対策を講じる必要があります。自転車が通路に飛び出せないように柵を設置しました。

はっけんのもりの植物⑦

「クワ」

石橋 康夫

山の畑で桑の実を／小籠こむすびに摘んだはいつの日か。童謡「赤とんぼ」の一節である。わが「はっけんのもり」のクワにも今年はじめ実が成った。その黒紫色に熟した実を子供たちも取って食べていたが、やはり大人たち、特に

「赤とんぼ」のころをなつかしむ大人たちは「そんなものを食べると赤痢になりますよ」と怒られながら、しかし、唇が紫色になる「証拠」を確実に残しながら食べた昔を思い出したかもしれない。クワの実の味は縄文時代の

の下宅部遺跡でも、二十一世紀の「はっけんのもり」でも変わらない味だ。青森の三内丸山遺跡ではヤマグワの種子が多量に出土し、酒が造られていたのではないかと推測されているというのを何かで読んだことがある。勿論、下宅部遺跡でもヤマグワの種子は沢山出土している。

クワは後世になって、養蚕に使われ大きな役割を果たした。先の大戦中にはその樹皮を供出させられた。何に使われたかは知らないが、その強靱な繊維が

利用されたのだろう。と云うことは、縄文時代にもクワの樹皮が強靱であることは知られていて、当然そういう目的にも使われていたのでは、と私は考えている。

勿論、材も強靱であり、杭材や器具材にも使われていた。それは、下宅部遺跡調査団の報告書を見ると、沢山の分析表に「ヤマグワ」の名前がかなりの数字で記載されていることから明らかである。(石橋)



◎今更聞きたい考古学の話 その4

漆塗りの土器

下宅部遺跡が漆で有名なのは今更の話であるが、飾り弓や杓子などの漆塗り木製品の話題が主であり、漆塗り土器の話はこれまであまり注目されてこなかった。今回はその辺りから話を進めてみよう。

漆塗り土器というと、印象に残るのはやはり赤色漆。全面を真っ赤に塗ったものや、文様に沿って塗り分けたもの、描画したものなどがある。漆はもとも透明感のある飴色であり、これに赤色顔料を混ぜ合わせると赤色漆となる。顔料にはベンガラと朱がある。

この「赤」に対して、縄文を代表するもう一つの色「黒」もまた印象的である。下宅部遺跡が繁栄していた縄文時代後期は、黒色の土器が好まれた時期でもある。おそらく土器の焼成の最終段階で燻しを掛けるなどして炭素を土器に吸着させ、黒色に焼き上げているのだろう。この黒色の土器に、更に黒色漆を塗布するのである。照りと深みのある黒が生まれる。

この黒色漆の塗布を行うのに二通りの方法がありそうだ。

一つは、やや厚みがあり皮膜を形成するものである。装飾としての観点からは、土器の外面に漆の塗布が施される。見える範囲ということで、口縁部の内側までがその対象となる。浅鉢は上から覗く形になるので内面に文様を持つものがあり、その範囲に漆が塗布されているものもある。こうした装飾としての漆は、肉眼で塗りを確認することができる。

漆は非常に優れた塗料であるが、さすがに直火には

弱い。単純に考えたならば、火に掛ける土器には塗布しない方がいい。しかし、実際に煮炊きに使用し、煤や吹きこぼれが付着した深鉢の口縁部にも漆が塗布されたものがある。口縁部への塗布の意識の強さの表れか、特別の意味があるのかは解らない。

二つめは、薄く器面に擦り込むような感じのもので、漆を塗っているのか磨き込んで照りが出ているだけなのか判断に苦しむものもある。浅鉢や鉢の胴部に多く、内外面とも対象となる。

鉢や浅鉢は口径が大きく器高が低い

ため、内面の器面調整を丁寧に行って滑らかな器面を作り出すことができる。そうした器面調整の一種として漆の擦り込みが行われた可能性もあり、やはり見える部分の美しさを意識しているということであろうか。

ところで、育てる会の土器部会では、お誕生日会などのイベントで縄文スープを振る舞うための食器を作っている。モデルは出土資料の小型の鉢である。素焼きの土器なので、そのままではスープが漏るし、どうしても土の味が強くなってしまうので、内面に漆を塗って使っている。

しかし、これは「縄文っぽさ」を出すための演出であって、縄文時代にはそのような銘銘器・取り分け用の土器



小型の鉢
内面漆塗り

があったこと、分かっていけるわけでは無い。どちらかと言うと、なかった可能性の方が大きいだろう。何故かというと、こうした小型の鉢の出土数は非常に少なく、日常的に食器として使用する器であるとは考えがたいからである。木製品を使っていた可能性が無いこともないが、やはり今のところそれを裏付ける出土例はない。

縄文時代の食のレシピを復元するにあたって、食器からの視点も有効である。杓子や匙は存在するが、おそらくこれも各人が食器として使うものではない。手づかみで食事をしていただけだと仮定すると、熱々のものではない。また椀のようなものもないので、汁っけの多いものでもないだろう。手で掴む、掻き集めることができる形状のものも想定できる。そうすると、今の縄文スープはもう少し検討しなければならぬことになってしまいます。うーん、どうしよう。



全面に塗布



描画

常により優れた塗料であるが、さすがに直火には

（千葉）

萩山小学校出前授業

縄文土器作りに参加して

七月十二日（木）朝九時に萩山小前に集合し、副校長先生はじめ諸先生方の出迎えをうけ図工室に案内された。

いよいよ、九時三十分より出前の縄文土器作り授業が始まった。

まず、図工の先生より粘土による縄文土器作りを行う旨の授業内容が伝えられ、講師に歴史館の方、及び育てる会のメンバーを迎えている旨が紹介された。

縄文土器製作に先立ち、講師である歴史館の石川学芸員より、チャートを使った解りやすい作り方の説明があり、その後、二クラスに分かれて縄文土器作りが始まった。

まず、粘土を丸めて、平らにし、底の部分の大きさ・厚さ等を指導し、作成に

入る。次に、粘土で蛇（粘土を丸め紐状にする）の作り方を指導し、それを一段一段積み重ねて、繋ぎ目に隙間が出来ないようにつまみ方を教え、壺に仕上げる作業を行った。

壺が仕上がったら、縄文時代の代表的模様であ

る縄目模様・飾り付けなどの付け方を教え、出来上がりである。それぞれの製作過程において、子供達のユニークな発想の下で土器が出来上がっていくのには、とても感じ入る所があり、子供達に教えられた所が随所に見られた。



育てる会会員作成土器（東村山ふるさと歴史館）

はっけんのもりの植物画ギャラリー

錦木

ニシキギ

はっけんのもりでは
下宅部遺跡から出土した
植物を育てています。



ニシキ木

スケッチ 鈴木フミエ

約二時間の間に、全員が作品を完成

させ、出前授業は成功のうちに終った。

後日、作品の焼き入れを行うとの事。

皆、上手に出来る事を願って校門を後にした。（竹野）

育てる会 インフォメーション

トイレの閉鎖について

現在、はっけんのもりのトイレは一日中シャッターを下ろし、閉鎖しています。以前からも、トイレのたむろ、喫煙、火遊び、悪戯が続いていました。最近はそのがエスカレートし、昼間のうちからいかげしい行為をするなど、非行の度合いがひどくなってきたしまいました。また、当初は夜間のみトイレを閉鎖していたのですが、シャッターが蹴られ、鍵が壊されるなどの被害にあいました。

夏休みに入り、ますます非行が心配される時期となりましたので、しばらくの間、トイレの閉鎖を続けさせていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

犬の糞に関して

はっけんのもりは子供達が駆け回ったり、水遊びをする場所です。犬の糞の放置はもちろん、埋めてしまつても水に溶け出すなど不衛生です。周辺住民の方から、子供達を安心して遊ばせられないなどの苦情もいただいています。飼い主の方は、糞をお持ち帰りいただくようお願いいたします。

育てる会の仲間たちへ 会員紹介その六

「育てる会の仲間たち」では、はっけんのもりで活動する育てる会のメンバーを紹介しています。今回はその六回目です。さて、どんな方が登場するでしょうか？

凡例

- 1 会員の名前
- 2 住所
- 3 特技・興味あること
- 4 育てる会に対する想い



- 1 阿由葉善作
- 2 東村山市多摩湖町
- 3 趣味としてゴルフ。古代の狩猟、農業、生活用品および土木、建築を支えた道具、工具や技術に関心。
- 4 当地に住み始めた頃は下宅部遺跡発掘調査の最中であつた。はっけんのもり遺跡公園が立派に誕生し、芝生に雑草が生え、この除草に参加したのを契機に育てる会に入会した。ここは子供が自然に親しみ、大人が散策する場としての役割も大きい。但し現在は雑草の繁殖速度に、除草作業が追いつかない。正に賽の河原である。美しく親しめる公園維持のために、作業方法の改善や、除草作業に参加される会員の

増加が望まれる。

- 1 金山由美
- 2 東村山市萩山町
- 3 特技……力仕事？こまかい事もチカラワザで終了！

興味のあること……東山道が活用されていた時代の東村山周辺のモロモロ……。また、瓦塔出土地周辺の集落のあり方など……。縄文時代はチョット苦手です。

4 全国レベルでも大変貴重な遺跡である下宅部遺跡に、発掘終了後もかわっていかれる事がうれしいです。
“はっけんのもり”を全国に広めていけるよう、微力ながら頑張ります。



育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

- 正会員：会費年間1200円
- 通信会員：会費80円切手12枚
- お申し込み：ふるさと歴史館

☎042(396)3800まで

育てる会

今後の予定

- 8月18日(土) 午前9時から
第64回育てる会「水生生物調査」
(はっけんのもり)
- 8月19日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 8月25日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 8月28日(火) 午後1時30分から
縄文の布アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 9月2日(日) 午後1時30分から
縄文土器部会(ふるさと歴史館)
- 9月4日(火) 午後1時30分から
縄文の布アンギン部会(ふるさと歴史館)
- 9月5日(水) 午後7時30分から
定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 9月8日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 9月11日(火) 午後1時30分から
ニュース印刷発行(ふるさと歴史館)
- 9月15・16(土・日) 午前7時出発
第65回育てる会「宿泊研修」(山形県長井市「古代の丘」他)
- 9月22日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)